



ギリシアの初期鉄器時代における土製玩具とその社会的背景

立教大学 学校・社会教育講座学芸員課程

兼任講師 高橋 裕子

I：本研究の背景と目的

ギリシアの初期鉄器時代（前 11～8 世紀）とは、前 12 世紀にミケーネ文化が崩壊したあとのほぼ四世紀に当たり、かつては暗黒時代とも言われた時期である。ミケーネ時代に比べて遺跡数は減少しているのみならず、堅牢な城壁に囲まれた大規模建造物も発見されておらず、ひと昔前までは当時の人々に取っても現在の研究者に取っても、闇に包まれた謎の時代と見なされていた。ただしここ数十年においては調査や研究が飛躍的に進展し、資料の数も種類も増加すると同時にその時代像は徐々に解明されるようになった。

かかる研究の進展にもかかわらず、当時の人々の具体的な生活に関してはなかなか研究が進まなかった。そのような状況に一石を投じる著作がアメリカ人研究者 S・ラングドンによって発表されたのは、ようやく 2008 年になってからのことである (*Art and Identity in Dark Age, 1100-700 B.C.E.*, Cambridge)。ラングドンは従来とは異なる視座から当該期の土器の図像を分析し、初期鉄器時代の図像表現には社会的なメッセージが込められていると主張した。とりわけ少年期の後半から青年期に至る人々に対して、ジェンダーの役割に即した理念やイデオロギーを明確に伝える機能を有していたと結論している。より具体的には、男性に対しては英雄的な行動規範や倫理観、一方女性に対しては結婚の重要性を伝える役割を果たしていたという。ラングドンの研究は資料解釈に際しては当時の人たちの人生や生活を具体的にイメージすることが重要であることを示し、その功績は諸家の間で高く評価されている。

かかる研究傾向の高まりを受けて、本研究は当該期の子供用の玩具から時代像を探ることを試みた。玩具というものは大人が子供に作って与えるもの

であり、それを分析するということは当時の社会に関して何らかの有益な示唆を得ることが可能であろう。初期鉄器時代の玩具に焦点を当て、その社会的意義や背景を検討することにより、当時の子供をめぐる状況について考察することを目的とした。

II：分析対象の設定

ギリシアの初期鉄器時代、とりわけその前半期においては、まだ金属製品は豊富ではなく、一般に玩具と推測される資料はすべて土製品である。ただし、土製品をめぐる解釈は必ずしも容易ではない。それが玩具であったか否かを判断することも時として難しい。

かかる事例としては、例えば、ふっくらとした胴部を持つ土製人形が言及される。一見子供用の玩具のようにも見えるが、その用途や機能を断定できるだけのデータは存在しない。一般に女性や子供の墓から副葬品として出土することが知られているが、それだけではこの種の土製人形が玩具であったか否かを判断することは不可能であろう。



(出典：B.Vierneisel-Schlörb, *Kerameikos: Ergebnisse der Ausgrabungen XV — Die figürlichen Terrakotten I. Spätmykenisch bis späthellenistisch*, München, 1997, pl.1:4)

そこで本研究においては、当該期の土製品の中でも玩具という見解が広く定着している車輪が付い

た土製品に焦点を絞ることとした。これらの資料は車輪が付されている上に、顔に穴が開けられていておそらく紐を通して引っ張ることが可能な作りとなっていることから、一般に玩具と見なされている。

III：車輪付き土製品の種類とその検討

資料を収集した結果、初期鉄器時代の車輪付き土製品には下記の種類があることが明らかとなった。

1) 動物形タイプ

馬もしくはロバなどの動物を象った土製品に車輪が付いているタイプである。



(出典：B.Vierneisel-Schlörb, *Kerameikos: Ergebnisse der Ausgrabungen XV — Die figürlichen Terrakotten I. Spätmykenisch bis späthellenistisch*, München, 1997, pl.92:11) .

2) 容器を背負った動物形タイプ

容器（アンフォラ）を背負った動物を象った土製品に車輪が付いているタイプである。



(出典：J.N.Coldstream, “A Protogeometric Toy Horse from Lefkandi”, *Mediterranean Archaeology*, 17, 2004, pl.1:1)

3) 戦車形タイプ

御者を乗せ、馬に引かせた戦車の形をしたタイプである。他の二つのタイプに比べて、手の込んだ豪華な作りの場合が多い。



(出典：R.A.Higgins, *Greek Terracottas*, London, 1967, pl.8:B)

IV：分析結果と結論

初期鉄器時代の車輪が付いた土製品は、墓の副葬品として発見された事例が多い。小児用の玩具であったとは推察されているが、実生活で使用されたものか否かは必ずしも明らかではなく、元来副葬品として制作された可能性も否定できない。おそらく実生活では現代には残っていない木製品の玩具などが使用され、それと同形のもので副葬品として粘土で制作された可能性が考えられる。

さらに現今の資料によれば初期鉄器時代でも最初期に関してはかかる遺物は発見されておらず、ミケーネ文化崩壊による混乱や不安定な状況からある程度脱してから制作されるようになったと見なそう。また出土している遺構が副葬品の豊富な墓である事例が複数確認されていることを考えるならば、生活に余裕がある富裕層が求める希少価値の高い品であった可能性が推察されよう。

種類としては、動物形タイプ、容器を背負った動物形タイプ、戦車形タイプの三つに分類される。私見によればそれぞれが固有の意味を持っていたと思われ、動物形の中で最も数が多い馬を象った土製品は馬が象徴する高貴さや社会的地位、そして容器を背負った動物形タイプは交易や繁栄と関わりがあったのではない。

そして最も社会の変化と密接に関わりがあったタイプが、戦車形土製品である。このタイプは後期幾何学文様期になると急激に増加し、また豪華かつ精緻な作品が登場する。後期幾何学文様期はいわゆるポリス成立期であり、集落の合従連衡がギリシア各地で頻発し、近隣の集落同士で戦争が行われることも少なくなかったと推察されている。また新しい政治体制や社会システムが誕生していったとも言われる時期である。かかる社会変動に際して戦車形土製品が富裕層の間で注目された背景には、子供（男児）に対して成長した暁には勇敢な戦士として活躍することが強く求められるような社会へと変質していったことが推察されよう。

初期鉄器時代の車輪付き土製品が小児用の玩具であったとしても、それを制作したのは大人である。そこには子供に対する期待や社会の要請が強く反映されていたと結論される。